



漉き機 すっきりとした作品を作るには欠かせない機械。

革の厚みを巧みに調節し、全体の厚みをととのえる。



一針一針縫う、手縫い縫製をとりいれている。麻糸を使い、クロスステッチしていくことで、美しい縫い目と丈夫さが生まれる。

身に着けるアイテムのなかでも、“道具”の趣があり、手入れをしながら長く使える革製品には、その人らしさが表れます。ララミーは、本当に大切にできるアイテムをご紹介します。

全ての作品には、細かいパーツに至るまで日本の皮革工芸の美がさえわたっています。

ララミーのアトリエは市内中心にあり、現代においては考えられない贅沢かつ特殊な環境でクリエイションとアトリエを連結しています。

また比較的若い女性職人が多いように思えますが、そのメンバーは革に人生を掛けた職人ぞろい。地域随一の若手アーティスト集団であります。

彼女らの作業の特徴は一人ひとりの職人が分業し、それぞれの得意分野を生かす工程となっている特徴があります。

その根拠は、レザーの裁断、組み合わせ、手縫い、磨きに至るまで一つ一つ職人が責任を持って行うことで、一人では成しえない芸術性と創造性に富んだ製品ができると言う理念があるからです。

仕上げにも充分に時間がかけられ、縫製の精密さ、コバの磨きといい 細部に至るまで美しい作品たち。

すべて職人の手仕事によるものでつくられ、そのビスポークに近い生産体制と完成度の高さにはクリエイティブションの本気を感じざるをえません。

このような工程を経て出来上がった作品には、アイコンである神秘的な曲線を生かしたものが多くあります。

また、レザーを寄木細工のように手作業で貼り合わせた、パッチワークにも日本らしさの作りを感じます。

太い麻糸を使って一針りずつ手縫いした厚手のデイトール。仕上げの美しいコバ磨きも職人技術の賜物です。

革素材はもちろん縫製糸一本にもこだわりが込められ、本磨きによるコバの処理を始め、隅々にまで手仕事が行き届いています。和のココロをもった職人の、もてなしと言えるでしょう。

ララミーの製品には金具があまり使われていないのはそんな素晴らしいものづくりとレザーの風合いをこだわりの証だろうのです。

大切な事は伝統とクラフツマンシップを尊重しシンプルで繊細、タイムレスの美しさを表現すること。クラフツマンシップとモダンな感性を融合したララミーの今後に大いに期待してください。